

厳しいボランティア活動

辻 寛 (1962・法)

岩手コースは初日、空路組と新幹線組が新花巻駅で合流、まず陸前高田市から大船渡市にかけて被災地の現状を学習した。大津波の被災地は都市計画で住宅の再建が制限されているので、2年前に訪れた時は流失した建物の礎石が延々と続いていましたが、2年8カ月経過した現在は雑草が生え茂り原野の状態です。土地の陥没でいたるところに池(水溜り)が出来、水鳥が遊んでいるのが散見され、何とも異常な風景です。復興の遅れというより、ほとんど進んでいないといえます。

大槌町では、「大槌刺子プロジェクト」についての説明と即売会が開かれました。2001年に「すべての生命が安心して生活できる社会の実現」を目的に設立された NPO 法人テラ・ルネッサンスが、避難所で暮らす女性の方々に刺子を製作する手仕事を提供しています。商品製作の収入を得る喜びと避難者同士の交流の場を提供していただいております。ツアー参加者は支援の一助にとそれぞれ作品を購入していました。

2日目は、被災した沿岸から約40km内陸に入った遠野市の NPO 法人遠野まごころネットが運営するボランティアセンターを訪問しました。

遠野まごころネットは、岩手県沿岸部の被災地を支援するため、遠野市民を中心に結成されたボランティア集団です。震災直後から多くの NPO や団体が活動していましたが、物資を集めるのは得意だが配り先を探すのが不得手な NPO、機動力はあるが届ける物資がない団体等、ばらばらな活動では有効な支援が出来ないとの反省から生まれたボランティア団体です。最初は地元の6団体とアドバイザーとして神戸と静岡の NGO、NPO が加わって震災直後の3月末にスタートしましたが、9か月後の年末には国際協力機構(JICA)や国際協力 NGO センター(JANIC)、東京大学など62団体が加入する大所帯となっていました。

遠野まごころネットは、主要5分野のサポート体制を構築し、被災地住民と協働で地域再生へ取り組んでいます。

それは、瓦礫の撤去、支援物資の配送など基本的復旧サポート、買い物難民や病弱者への同行支援など個人サポート、地域コミュニティーの再生など地域サポート、新しいビジネスの実現など起業サポート、各分野の専門家と現地をつなぎ被災地の状況と支援活動を検証、次世代に役立てる検証サポートなどです。

しかし、最大の課題は運営費の調達です。全国から寄せられる支援金も徐々に減少し、行政からの補助金もなくなりました。その為現在は、当センターを利用するボランティアから協力金として一日1,000円を頂いているという。ボランティアは自己完結が原則ですから交通費、食事代等一切が自己負担です。その上に協力金を拠出しているというのです。

今回のツアーに参加して、一つは復興事業への強力な支援を、二つには災害弱者に寄り添ってきめ細かな支援活動を展開している NPO 法人や、ボランティアに対する強力な支援を政府に望みたいと思いました。